

久留米聖火リレー 第1回 「大久保市長インタビュー」

いよいよ迫る東京2020オリンピック・パラリンピック大会！久留米市は事前キャンプ地として、ケニア共和国、カザフスタン共和国の選手たちをお迎えします。そこで今回は、大久保勉市長に今後の展開や事前キャンプを通してどのようなことを世界にアピールしたいか、お伺いしました。



このたび久留米市への招致が実現した「オリンピック・パラリンピック競技大会事前キャンプ地」とは、どういうもののでしょうか？



「東京2020オリンピック・パラリンピック開催に際して、「東京」というタイトルから、どこか遠い話と思う方も多いでしょう。しかし政府は、今大会を日本全体で開催するという方針です。

久留米市としても、気持ちは「東京2020/久留米オリンピック・パラリンピック」としていきたいですね。皆さんの生活の場に世界レベルの選手がいる。金メダルをめざす、人類史上最速の、最強の人たちがすぐ隣にいる、ということなんです。

今回のオリンピックの大きな見どころのひとつが、マラソンのタイムで2時間を切ることができるかどうかと言われています。その最有力候補が、現在世界記録を持っているケニアのエリウド・キプチョゲ選手。この選手が私たちの久留米で練習することは、非常に価値があることだと思います。

ここに至るまでは、何度も大使館を訪問したり、両国の大使とお会いしたり、福岡県からのサポートも得ました。

そして何より経済団体や商工会議所や市民の皆さん、久留米市のさまざまな分野からの応援がありました。ケニア、カザフスタン両国の信頼を得て事前キャンプ地に選ばれる結果を導いたのは、「オール久留米&福岡」の総合力によるものです。

今後も、中国や東南アジアでアジア大会やワールドカップといった世界大会が開催されます。この事前キャンプをひとつの契機として、これからも設備や環境の整った久留米へ世界レベルの選手たちを招く機会につなげていきたいと思っています。」